

古石篤子

慶應義塾大学名誉教授

湘南藤沢学会 「研究助成基金」 成果報告書

活動の名称：「教員養成～教えることを教える：フランス語教育からの発信」

活動の目的：

日本におけるフランス語教育の教員養成には構造的な問題がある。それは、フランス語が教えられている多くの場合が、中等教育ではなく大学であることによる。つまり中等教育で教えるには教員免許が必要とされるので、教員となるには免許取得に必要な科目の履修と教育実習を行うのであるが、大学ではそうではないからである。そのため、ほとんどの教員がいわゆる「無免許運転」をしていることになる。それぞれの研究分野では博士号を取得したり、第一人者であったりするケースでも、「外国語としてのフランス語」を教えることに関しては基本的知識も無い素人であることがほとんどで、それなのに、本人にその意識がないことも多いことが問題の根幹にある。このようなことは医学や法律、またスポーツの分野では考えられもしないし、許されることではない。

本シンポジウムの目的は、日本におけるフランス語教育の教員養成にからむ問題を正面からとりあげ意識化し、具体的にどこに問題があるのかを探って今後の改善の方策を探ることにあつた。重要なのは、フランス語教育に存在する「問題」は、他の外国語教育、特に英語以外の外国語教育においても共通に見られるということである。従って、日本フランス語教育学会が本学日吉キャンパス来往舎に於いて2015年春季大会を開催するにあたり、シンポジウムと講演を、日吉キャンパスで外国語を教える全教員に開放し、言語の壁を超えて共に議論をして問題の共有を図りたいと考えた。そのため、非学会員は大会費2,500円のところ、日吉の教員に限って無料にて参加可能とした。

活動の概要：

シンポジウムは2015年5月29日（金）午後5時～7時にかけて、次の形式で行われた。

1. 問題提起 古石篤子（日本フランス語教育学会会長）
2. 日本におけるフランス語教員養成について
 - (1) “Stage de mars” について 明石伸子（早稲田大学）
 - (2) 大学での教員養成と中等教育現場の連携
 - (a) 大学での教員養成の課題について：北山研二（成城大学）
 - (b) 中等教育現場での問題について：松田雪絵（埼玉県立伊奈学園総合高校）
 - (3) FLE の diplômes について：フランスの場合
Sidonie LACOME（アンスティチュ・フランセ東京）

3. 講演「現在の日本における教員養成制度の問題について—外国語教育の場合」

大谷泰照（大阪大学名誉教授）

まず古石から包括的な問題提起が行われた。そのなかでフランス語以外の、いわゆる「第二外国語」と呼ばれる英語以外の外国語の教員養成・研修制度についても報告されたが、どの言語も同様の問題を抱えている。

その後、日本におけるフランス語教員養成に関して、まず Stage de mars（3月研修）についての報告があった。これは日本フランス語教育学会・日本フランス語フランス文学会・駐日フランス大使館の三者共催で毎年3月に4日間集中的に行われる、理論と実践を組み合わせた研修である。すべてのフランス語教員に開かれているが、高等教育で教える教員にとっては長い間国内ではほとんど唯一の研修の機会であった。次に、大学での教員養成と中等教育現場の連携について、それぞれ大学側と高校側から報告があった。大学での教員養成課程にも様々な問題があることが指摘されたが、「中等教育現場から見える問題」について語った松田教諭の報告はシビアな現実を我々に突きつけてきた。これらはそもそも現在の制度に内在する問題に根があるのであるが（大学での初習外国語であるフランス語の教員免状を4年間で取得するという無理）、少しでも状況を改善するためには、今後は高校と大学間のより密な連携（高大連携）が不可欠であるということが明らかにされた。その後、アンスティチュ・フランセ東京のLACOME氏からアンスティチュ・フランセ東京で取得できるDUFLE (Diplôme universitaire FLE)（フランスのメーヌ大学との連携）や、フランスで取得できる外国語としてのフランス語教育（FLE）の資格についての紹介があった。

このシンポジウムは、最後に大谷泰照先生のご講演で締めくくられた。先生は英語教育がご専門であり、日本の教員養成制度について外国語教育に止まらず、広い視野からご講演いただいた。世界の先進国と比較してわが国の教育予算の少なさは驚くべきものがあること、高度な専門職であるはずの教育職がわが国ではアマ化してきていること、わが国の教員養成制度の貧困さ、等々、国際的視点と歴史的視点から批判的に論じられて大変刺激的なご講演であった。

パネラー、及び講演者の話の後、フロアとの議論も活発に行われた。学会員以外の日吉の外国語教育教員の参加も、人数は多くはなかったが、有意義な意見交換がなされた。

以上。